

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	23	学 校 名	静岡県立吉原高等学校	校 長 名	佐田 恵子
------	----	-------	------------	-------	-------

1 スクール・ミッション

富士市内で最初に開校し、多くの人材を輩出してきた歴史と伝統を誇る高校として、校訓「正しく 強く 明るく」のもと、普通科と国際科を有する特色を生かし、多様な価値観を尊重し、地域・世界への貢献と未来の創造に向けて主体的に生きる人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

『生徒が主体的に伸びていく学校、生徒一人ひとりを伸ばす学校』

(自分で考え判断し取り組む、自分の行動に責任を持つ、失敗を恐れずチャレンジする生徒)

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
(本校では卒業までにこのような人に育てます)	(本校ではこのような教育を実施します)	(本校ではこのような生徒を求めています)
○自分の目標達成に向けて主体的に取り組む、未来を切り拓こうとする人	○主体的かつ協働的に学ぶ探究的な「授業」	○自分の可能性を広げたい生徒
○社会を支える一員として主体的に地域に貢献しようとする人	○地域と連携し主体的かつ協働的に地域の課題解決を探る「吉高ゼミ」	○自己実現を目指す生徒
○多様な文化や価値観を尊重できる人	○異文化理解を深める国際交流や主体的な取組で生徒が成長する「学校行事・生徒会活動・部活動」	○多様な文化や国際交流に関心のある生徒

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

ア【育てたい生徒像】

生徒の主体的な学びが可能となる多様な体験の場面を用意し、一人ひとりの得意分野を伸ばすとともに、失敗してもしなやかに立ち直る非認知能力を育成する。

イ【健康・安全】

心身ともに健康で安全・安心して学ぶことができる教育環境を整える。

ウ【授業】

生徒の知的好奇心を刺激し、生徒自らが問いを立て課題解決を行う主体的な学びを通して、思考する力、確かな学力を育成する。

エ【進路指導】

自己実現に向け、主体的に取り組む生徒を支援するキャリア教育を推進する。

オ【異文化理解】

異文化理解教育を推進する中で、互いを尊重し、リーダーにもフォロワーにもなれる資質を育成する。

カ【地域連携、信頼される学校づくり】

地域との連携をさらに深めるとともに、保護者・地域の期待に応える魅力ある学校づくりを推進する。

キ【教職員】

「チーム吉高」として教職員が協働的な教育活動・事務室経営を行うとともに、ワーク・ライフ・バランスの向上に努める。

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	生徒の主体的な学びが可能となる多様な体験の場を用意し、一人ひとりの得意分野を伸ばすとともに、失敗してもしなやかに立ち直る非認知能力を育成する。	・学年集会、学級活動、学校行事に積極的に取り組み、ルールを主体的に守れるように支援する。 （１）	・「失敗しても自分なりに解決し、立ち上がることができる」と答える生徒の割合 70%以上	1 年
		・学年日より、進路日より、学年集会を利用して、学校行事や進路を見通せるようにし、生徒自ら主体的に行動できるよう支援をする（２）	・「学年行事や学校行事において、ルールを守りながら、主体的に取り組むことができた」と答える生徒の割合 80%以上	2 年
		・主体的かつ協働的に学ぶ探究的な「授業」の実施に努める。（３）	・「授業に満足している」と答える生徒の割合 80%以上	3 年
		・ICT を活用した授業を通して多分野の知識を増やす。（３）	・「ICT 機器を活用し、生徒の思考力を育むことができた」と答える教職員の割合 80%以上	
		・学校行事の中で見られるアイデアや主体的な取組を積極的に認め、支援する。（生）	・「学校行事に満足している」と答える生徒の割合 80%以上	生徒
		・専門委員会の活性化を図り、生徒自身に活動内容を考えさせ、それを主体的に実行できるよう支援する。（生）	・「生徒会活動などが活発に行われている」と答える生徒の割合 70%以上	
		・国際科独自の活動の前後に行う事前準備や事後報告を充実させ、調べ学習や、外国語習得を主体的に行い、得られた成果を発表して、参加しなかった人とも共有できるようにする。（国際）	・「ポスターやスライドを使用した発表に自分なりの工夫ができた」と答える生徒の相互評価の割合 80%以上	国際
イ	心身ともに健康で安全・安心して学ぶことができる教育環境を整える。	・日頃から観察、傾聴、声掛け、受容、共感の姿勢で生徒 1 人 1 人と接する事を心掛ける。（生）	・「HR や部活動の中で自己有用感を持てている」と答える生徒の割合 80%以上	生徒
		・生徒に関する担任等との情報交換会を定期的に実施する。（生）	・「自分の思い、考えを言語化できる」と答える生徒の割合 80%以上	
		・毎学期末に教室や施設の安全点検を実施し、教育環境の安全保持に努める。（総）（事）	・「生徒対応、保護者対応を速やかに行うことができた」と答える担任・学年主任の割合 100% ・点検実施率 100% ・施設・設備不良における事故 0（ゼロ）	総務 事務室

		価を行わせ、生徒の主体性の程度、学習内容の理解度を確認する。(理) ・広い視野で物事を考え、それを英語で表現することができる能力を養う。(英) ・器楽等を利用して、楽譜の仕組みを理解させ、思考させ、主体的に実技に取り組むよう支援する。(芸) ・新体力テストで目標を各自設定させ、昨年度の記録を向上させる。(保体) ・高校生としての学習習慣を定着させ、自律した学習者にする手立てを講じていく。(1)	る生徒の割合 70%以上 ・「自分の考えを英語で表現することができる」と答える生徒の割合 80%以上 ・人前で演奏する機会を作り、全員で演奏することができる。 ・教育委員会が主催する、新体力テスト記録会にて、昨年度の記録を更新する。 ・「授業開始時に予習復習を含めた授業準備ができていた」と答える生徒の割合 80%以上	1 年
エ	自己実現に向け、主体的に取り組む生徒を支援するキャリア教育を推進する。	・社会の中でいかに主体的に他者と関わり自己実現を図るか、長期的な視野で考えることが進路実現への道と理解する手立てを講じる。(進) ・様々な媒体を通じて、進路に関する情報を家庭、生徒へ提供する。また、進路決定の周縁にある相談をしやすい環境を作る。(進) ・進路指導に関して、学校と家庭のコミュニケーションが常に図られている状態を作る。(進) ・探究やLHRを通し、分野別学習を行い、納得のいく文理選択ができるよう支援する。(1) ・2年生の進路計画を示し、吉高ゼミや進路行事、模試等を利用して主体的に選択できるような支援をする。(2) ・進路実現に向けて、第1志望合格に向けた指導を行う。(3) ・外部検定の模擬問題、大学入試の小論文など実学的な国語を授業に取り入	・「進路決定にあたり、社会の中でいかに主体的に他者と関わり自己実現を図るか、長期的な視野で考えられた」と答える生徒の割合 90%以上 ・「学校から提供される情報または教師との相談が、進路を考える上で役立った」と答える生徒の割合 90%以上 ・「進路指導に関して、学校と家庭のコミュニケーションが図られている」と答える生徒、保護者の割合 80%以上 ・「吉高ゼミ、LHRが進路研究や文理選択に役立った」と答える生徒の割合 60%以上 ・「模試や進路行事が進路選択に役立った」と答える生徒の割合 80%以上 ・第1志望校合格率 80%以上 ・「授業における学習内容が自己実現の役に立った」と答える生徒の割合 60%	進路 1 年 2 年 3 年 各教科

		れる。(国語) ・模擬選挙を中心とした主権者教育を実施する。(社) ・「税に関する作文」に応募し、税制についての理解を深める。(社) ・大学入試問題を授業で取り入れる。(数) ・各科目担当が機会をとらえて、学習内容に関わるキャリア教育を行う。(理) ・将来、英語が必要な場面において、主体的に英語を学び直し、使うことができる生徒を育成するための手立てを講じる。(英) ・保育科進学希望者に対し、読譜力の向上や実技に主体的に取り組み、弾けると感じることをできるよう支援する。(芸) ・体育祭、球技大会、長距離走大会の体育的行事の場面で、様々な立場の生徒が、学年を越えて様々なことに積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決できるよう支援する。(保体)	以上 ・(同上) ・(同上) ・「大学入試問題に意欲的に取り組んだ」と答える生徒の割合 50%以上 ・「将来の目標やなりたい自分に近づくために、自分から学ぼうとする姿勢を先生が支えてくれた」と答える生徒の割合 70%以上 ・「旅行やボランティア活動、アルバイト、就職先などで、英語を使うことができると思う」と答える生徒の割合 80%以上 ・バイエル 85 番までを終了することができ、卒業試験において演奏を発表できる。 ・「学校行事に満足している」と答える生徒の割合が 80%以上	
オ	異文化理解教育を推進する中で、互いを尊重し、リーダーにもフォロワーにもなる資質を育成する。	・自分とは違う環境で生活する人々、使用する言語が異なる人々、考え方が異なる人々と互いに理解しあえる資質を育てる。(国際) ・普通科、国際科の隔てなく、異文化理解に興味を持てるように授業や集会で紹介する。(1) ・吉高ゼミを利用して、国際科の学習を普通科の生徒にも共有することで異文化理解に触れる環境を作る。(2)	・「研修や活動に参加したことで、コミュニケーション能力が伸びた」と答える生徒の割合 80%以上 ・「研修や活動に参加したことで表現する能力が伸びた」と答える生徒の割合 80%以上 ・「多様な価値観に触れ、自分の見識を広めることができた」と答える生徒の割合 70%以上 ・学年全員で国際科の行事に積極的な参加を促す。	国際 1 年 2 年

		・国際科と普通科の交流、意見交換を行う。(3)	・(同上)	3年
カ	地域との連携をさらに深めるとともに、保護者・地域の期待に応える魅力ある学校づくりを推進する。	・地域のボランティア活動、地域防災訓練に積極的に参加するよう呼び掛ける。(総) ・社会人講話を行い、地域の人々とのつながりをもつ。規範意識を身に付け、凡事徹底を実践できるようにする。(1) ・保護者に対し、進路、修学旅行、海外異文化体験を含め、月2回以上(年間17回以上)の情報発信を行い、学校と保護者が両輪となれるようにする。(2) ・保護者に対し適切なタイミングで受験情報を提供し、多様な方法で進路実現を目指す生徒を様々な手立てで支援する。(3) ・予算執行による魅力的な校内環境の充実(事) ・学校運営協議会での協議がより一層充実するよう体制を整え、地域に開かれた学校づくりの推進を図る。(管)	・地域防災訓練参加率50%以上 ・「ルールやマナー、あいさつといった基本的な規範を身に付け、実践することができた」と答えた生徒の割合80%以上 ・「学校からの情報提供に満足している」と答える保護者の割合80%以上 ・生徒・保護者や地域から期待される進路指導を実現する。「吉原高校での進路指導に満足している」と答える生徒・保護者90%以上 ・創意工夫により魅力的な校内環境充実の予算を昨年度より増額する。 ・協議会でいただいた意見を職員に共有し、魅力ある学校づくりの一助とする。	総務 1年 2年 3年 事務室 管理職
キ	「チーム吉高」として教職員が協働的な教育活動・事務室経営を行うとともに、ワーク・ライフバランスの向上に努める。	・行事ごとの予定を事前に周知し、見通しを持った業務遂行に寄与する。(教) ・ICTを率先して業務に取り入れ、教職員にモデルケースを示す。(教) ・分担に則り業務を行うが、全員が内容を理解し、より良いものを目指して協働する姿勢を持つ。(進) ・効率よく業務を遂行するため、常に内容を精査し工夫する。(進) ・積極的に連絡や相談をおこない、互いに負担を軽減できるように負担が偏らないよう助け合う。(1) ・学年団の先生方の得意分	・「計画的に業務を行った」と答える教職員の割合80%以上 ・「ICTを活用して業務改善を行った」と答える教職員の割合90%以上 ・定例の分掌会議を中心に意見を交わし、協力し合っていることと互いに実感できる。 ・業務平準化を目指し、常に業務内容を精査する習慣を各人が身に付ける。 ・業務が偏らないように分担バランスをとる。定期試験前などに年休習得、定時退勤の機会を生かすように互いに呼びかける。 ・担任会を月1回開催し、	全分掌・学年

		野を活かし、互いが助け合えるように分担をしたりフォローしあったりする。(2) ・適正な学校経営予算の編成と執行(事) ・時間外勤務の軽減に向けた職員への声掛けを積極的におこなう。(管) ・定時退勤に向け教職員一人ひとりが目標を立て取り組む。(管) ・個人、チームの目標達成を支援するカリキュラム・マネジメントを行い、確実な教育目標の達成を図る。(管)	生徒情報等を共有する。常に助け合える環境にする。 ・検査・監査での文書指摘 0 (ゼロ) ・教職員の時間外勤務時間合計を前年比 3 %削減 ・各自が週 1 日の定時退勤曜日を定め、「週 1 日は概ね定時退勤できた」と答える教職員の割合 90%以上 ・管理職の年間を通した面談や助言により、「自身の目標とその手立てを明確にし、取り組むことができた」と答える教職員の割合 80%以上	事務室 管理職
--	--	---	---	-----------------------